

31 第2資料展示室

さらに右隣の教室に移ります。この教室もシンプルな造りです。隣の復元教室と教室間の移動ができるよう後方窓側に通用ドアが設置してあります。この部屋は、第2資料展示室として整備し、主に理科の実験器具類を



教室の後壁面、通用ドア



教室（第2資料展示室）

展示しています。主な展示品は、明治30年代購入の実験器具、戦後に予科練から譲り受けた器具、また計算機、印刷機、アナログ式コンピュータなどです。

32 第3資料展示室

さらに右隣の教室は、正面西端部角の部屋となります。この教室は2壁面が白漆喰壁、2壁面が縦長窓であるため、より明るい雰囲気のある部屋となっています。この部屋は、第3資料展示室として使用されてきました。主な資料は、学校沿革に関する資料、大日本史等の和綴本、昭和50年代の時間割表示板などです。



教室前面の白漆喰壁面



教室（第3資料展示室）

33 西教室

第3資料展示室の廊下を右に折れると、西棟部になります。ここには普通教室が2室あります。この教室もシンプルな造りです。この西教室は、吹奏楽部の練習場・部室として長年愛用されてきました。



西教室（吹奏楽部練習場・部室）

※ 以上で、旧本館の外観、内観のご案内は終了となります。お疲れ様でした。次は、現在行われている耐震補強・復元の改修工事についてご案内します。

創建後最大「平成の大改修」

— 耐震補強と復元 —

1 工事概要

—創建当時の姿を忠実に復元—

旧本館は、創建後100年間に、屋根の葺き替え、塗装の塗り替え、東西棟端両教室の切り詰めなど改修工事が何度か行われてきました。そして、平成23年（2011）の東日本大震災後、耐震性能が不足していることが判明したため、平成28年（2016）から、建築基礎や軸組の補強、老朽化の著しい部



旧本館正面の工所用覆い



工所用覆いと仮設屋根

材の交換など耐震補強工事を実施しています。併せて、創立120周年記念事業の一環として、創建時代に忠実に復元すべく、屋根の葺き替え、塗装の塗り替えなどの改修工事を行っています。

このたびの工事は、創建以降において最大級の改修工事となります。まさに「平成の大改修」と呼ぶに相応しい工事です。この工事が実現できたのは、国や茨城県、本校進修同窓会を始めとする関係の皆様のご多大なるご尽力の賜です。改めて敬意を表します。完成は平成30年（2018）3月を目指しています。



文化庁の改修工事視察

工事は、仮設足場を設置し、旧本館全体を仮設屋根で覆って行われています。土台には一部著しい腐朽や蟻害が確認されましたので、部材の取り替え工事をしながら修繕を進めました。

2 主な復元改修

—名実ともに甦る「アカンサスの学舎」—

創建当時の状態に忠実に復元する主な改修は、次の4点です。

【フィニアル】

正面玄関の切妻屋根の四角錐飾りを、創建当時のアカンサスの4弁の花を模したフィニアルに復元します。併せて東西両端部の切妻破風屋根にも同様のものを復元します。昭和4年（1929）の卒業アルバムでは四角錐の飾りになっていたので、およそ90年ぶりの復元になると思われます。一色史彦氏は、「玄関の三角屋根を見上げるたびに、私は気が滅入ってしまう。この頂きにはかつて見事に大きなアカンサスの花が開いていたことを想うのである。これを設計した人にとっては耐えられない姿であろう。」（住宅建築, 1994）と嘆き、さらに進修同窓会旧本館活用委員会は、『アカンサスの学舎』も、いずれ全面的な解体修復が避けられません。そのときこそ、見事な4弁の花を再び雄大に掲げたいものです。」（Acanthus, 2008）と期待を述べていました。この復元はまさに進修同窓生の悲願だったのです。復元されたアカンサスのフィニアルを見上げる駒杵の喜ぶ顔が目には浮かびます。



正面玄関屋根の四角錐飾り



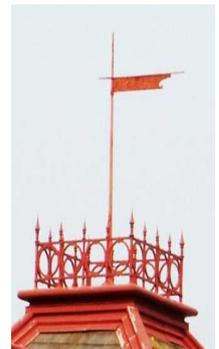
復元のフィニアル模型

【旗印型風見】

正面東端部の方形屋根頂部にある避雷針と避雷針固定鉄骨を撤去し、そこに西端部と同様の旗印型風見を復元します。無粋な避雷針と固定鉄骨の姿が消え、洒落た風見が東西に並び立ち競い合うように風向きを示す姿が甦ります。



東端部の避雷針・固定鉄骨



東端部屋根の旗印型風見

【天然スレート】

昭和42年の葺き替えにより屋根材は人造スレートになっていましたが、創建当時の天然スレートにおよそ50年ぶりに復元します。天然スレートの調達に当たっては、東日本大震災により宮



天然スレートの葺き替え工事

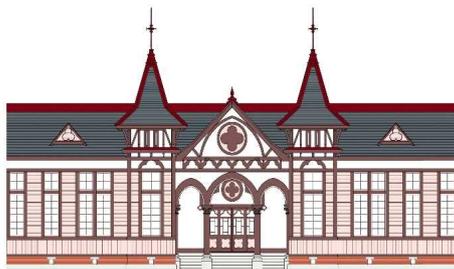


天然スレート材(カナダ産特注品)〈6寸×12寸〉 (10円玉)

城県の産地が生産停止となりましたので、同質の石を産するカナダのケベック州から輸入しました。プリンスエドワード島を舞台とした「赤毛のアン」(モンゴメリ)の中で、アンが「ニンジン」とからかわれて石盤で級友の頭を叩いたシーンが有名ですが、ケベック州とプリンスエドワード島とは隣接しているため、旧本館の天然スレートとアンの石盤とは同じ産地であると思われます。

【茶系塗色】

外壁の塗色を創建時代に復元します。断面観察等の結果、これまでに7回の塗り替えが確認され、創建当時の塗色は暗紫色(栗の鬼皮色)と



これまでの塗色(小豆色、桃色)



復元する創建当時の塗色(暗紫色、淡褐色)

淡褐色(キャラメル色)であったことが判明しました。大正10年(1921)頃に現在の小豆色と桃色に塗り替えられたようですので、およそ100年ぶりの復元になると思われます。

3 発見

—「上敷免製」煉瓦最古の学校建築物—

このたびの改修工事で、玄関ホール床下の基礎から、「上敷免製」の刻印のある煉瓦が発見されました。刻印は最優良ブランドの証ですが、刻印煉瓦は裏積み使用が一般的ですので、今回はまさに奇跡の発見です。この煉瓦を製造していた日本煉瓦製造株式会社は、明治21年(1888)に埼玉県榛沢郡上敷免村(現深谷市上敷免)において、「日本資本主義の父」と呼ばれる渋澤栄一の主導によって設立されました。この煉瓦は辰野金吾設計の東京駅舎や旧日本銀行本店本館等にも使用され、日本の近代化に大きな役割を果たしました。この発見により同社製煉瓦使用の現存する学校建築物の中で、旧本館が最古となることが判明しました。なお、煉瓦工場から土浦町までの運搬は、旧日本煉瓦製造専用線(M28開通)、高崎線・東北本線(M16開通)、常磐線(M29開通)の鉄道が使われたものと思われます。

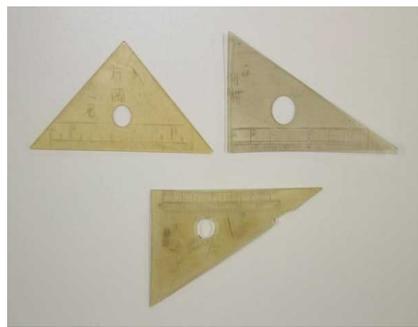
また、床板等の解体中に床下の土間からは戦前に使われたと思われるプラスチック製の三角定規(「一甲、川村」〈1年甲組、川村の意〉等の刻名)も見つかっています。心当たりの方は申し出て下さい。



廊下床下の煉瓦積み基礎



「上敷免製」刻印入り煉瓦(白粉で着色)



床下の落とし物(三角定規)

参考文献

- 創立百周年記念誌「進修百年」 1997年 茨城県立土浦第一高等学校創立百周年記念誌編纂委員会
月刊 Acanthus 第4号, 第16号, 第21号, 第35号, 第36号, 第37号, 第38号 進修同窓会旧本館活用委員会
国指定重要文化財 旧土浦中学校本館 パンフレット 茨城県立土浦第一高等学校
茨城の文化財 第15集 1977年 茨城県教育委員会
霞ー2013年度冬季展示室だよりー 2014年 土浦市立博物館
博物館 明治村 ガイドブック 2015年 名鉄インプレス
茨城県立水戸商業高等学校Webサイト
日鮮満 土木建築信用録 1925年 日本実業興信所
日本の近代建築(上) 1993年 藤森照信 岩波書店
Carpenter Gothic Nineteenth-Century Ornamented Houses of New England 1978 Alma deC. McArdle
北海道大学工学部研究報告 明治初期洋風建築のいわゆる“米国風”について 1968年 越野武
いばらきの文化財 1985年 茨城新聞社
常陽藝文 2001年 1月号 旧制土浦中学校
日本の西洋館ー風土に生きる明治の洋館ー 2001年 常陽新聞社
明治の学舎 1997年 小学館
茨城の建築探訪 2006年 崙書房出版
安積歴史博物館 重要文化財 旧福島県尋常中学校本館パンフレット 公益財団法人安積歴史博物館
東京大学総合研究博物館デジタルミュージアムWebサイト 「本郷キャンパスの百年」 工科大学本館
千代田区観光協会Webサイト 工科大学校址碑
A History of Architecture 1975 J. C. Palmes
重要文化財 明治生命館 ご案内パンフレット 明治生命館
A Handbook of Ornament with Three Hundred Plates 1896 Franz Sales Meyer
西洋ロマンとモダン建築ー水戸の近代建築からー 2004年 水戸市立博物館
資料館(旧茨城県立太田中学校講堂) 一般公開資料 茨城県立太田第一高等学校
国指定重要文化財 旧茨城県立太田中学校講堂パンフレット 茨城県立太田第一高等学校
「まぼろし」の講堂を追ってー竣工, 解体, そして伝説へー 2017年 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校
和洋住宅建築学 1906年 駒杵勤治
建築設計図集 1911年 小野武雄 博文館
Gothic Ornaments 1831 Pugin, Augustus
建築英語辞典 1978年 星野和弘 彰国社
教会建築を読み解く 2012年 デニス・R・マクナマラ ガイアブックス
学校建築図説明及設計大要 1895年 文部省
朝日新聞 2006年6月23日 わがふるさと遺産 旧制土浦中学本館
住宅建築 1994年 7月号 茨城に花開いた木造洋風建築・駒杵勤治 一色史彦 建築資料研究社
赤毛のアン 1908年 L. M. モンゴメリ
国重要文化財 日本煉瓦製造株式会社 旧煉瓦製造施設パンフレット 旧煉瓦製造施設

あとがき

旧本館をご一緒に散策していただき、ありがとうございました。

このたびの「ぶらり旧本館」の執筆に当たっては、飯村弘氏(本校高校第5回卒)、大塚健司氏(本校高校40回卒、茨城県教育庁総務企画部文化課)、遠藤優氏(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)に多大なるご助言や資料のご提供を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます

本稿では、旧本館の建築様式や意匠について今後の議論の端緒になることを願って、あえて思い切った独自の解釈を述べさせていただきました。お気づきの点がありましたらご意見をいただければ幸いです。また今後、改修工事が竣工となれば一般公開が再開されます。創建当時に忠実に復元され、より一層輝きを増す壮麗な旧本館「アカンサスの学舎」を、是非ともご自分の目で確かめていただきたいと思います。

結びに、100年余に渡って風雪に耐えながら生徒を育て見守ってきた「旧本館」に対して深く敬意を表しますとともに、今後とも幾久しく本校のシンボルとして輝き続けることを心より願っています。

平成29年11月18日

文 横島義昭(茨城県立土浦第一高等学校第33代校長 H27. 4. 1~H29. 3. 31)
写真 横島義昭, 進修同窓会等